

月の見え方と太陽

月の見え方と太陽

月は、自分で光を出しているのではなく、太陽の光を反射してかがやいています。そのため、月は、いつも太陽のある側が光っています。光が当たっていない側は暗く、ほとんど見えません。

夕方、太陽が西にしずむころ、西の空の低いところに、細い三日月が見えることがあります。このとき、三日月は、右側、つまり太陽のある西側が光っています。

それから数日たつと、夕方の月は、南の空の高いところに見え、右半分が光った半月になります。さらに数日たつと、夕方、東の空から、まん丸の満月がのぼってきます。このとき、太陽は、月の反対側の西にあります。

満月のころには、月は夕方に東からのぼり、真夜中に南の空の高いところを通って、明け方に西へしずみます。一晩じゅう、月を見ることができるのです。

このように、月の形の見え方は、月と太陽の位置の関係によって変わります。月の光っている側を見れば、太陽がどちらにあるかが分かるのです。

毎日、同じ時刻に、月の形と位置を記録してみると、月の位置が、日ごとに東の方へ移っていく、形も変わっていく様子がよく分かります。

1 月は、何の光を反射してかがやいていますか。



の光

2 夕方、西の空に見える三日月は、どちら側が光っていますか。

- ア 右側（西側）
イ 左側（東側）
ウ 上側

3 夕方、東の空からのぼってくるのは、どんな形の月ですか。



4 月の光っている側を見ると、何が分かりますか。

- ア 太陽がどちらにあるか
イ 明日の天気
ウ 今の気温